

市長が行く

決意を新たに

No.156

茂原市長 田中豊彦



私が市長に就任する少し前、後に東京都知事に就任する猪瀬氏が本市を訪れ、講演会で「茂原市は第二の夕張になる」と発言し、それは週刊誌の記事にもなりました。私は自分の生まれ育った茂原市の財政状況がそこまで悪化していることに愕然とし、このままにしてはいけないという強い使命感を持ち、茂原市長に立候補しました。

いざ就任してみると、広域負担分も含めて借金は実際に800億円近くあり、これを迅速に縮減すること、さらには、数億円しかなかった自治体の貯金である財政調整基金を増やすことを最優先課題として行財政改革に取り組んできました。あれから16年、借金は540億円にまで削減し、財政調整基金は一時50億円まで積み上げることができました。(度重なる災害で減ってしまっていました、それがなかったら、どう

なっていたことかと思うと、基金を積み上げてきたことの重要性を感じます)そしてそれと同時に、小中学校のハードウェアの整備や、長生病院の拡充、子育て支援等できる限り市民のために選択と集中を合言葉に頑張ってきたつもりです。そもそもこの地方の小さな市において、なぜこのような大きな借金ができてしまったのか? それについて、誰も疑問を投げかけないことに私は納得できない思いを持ち続けています。誰がどういうことをしたためにこのような借金ができてしまったのか? 市民の皆さんには、もつと関心を持って考えていただきたいと思えます。

先日、ある集會に参加させていただいた時、「市長はよく借金を減らしたと言うけれど、何もしなくても、借金は減るよう計画できていたのでは」と言われました。確かに借金は返済計画に基づき返済されますが、

当時の茂原市にはそもそも予定通りに返済できるだけの財源が全くありませんでした。次年度の事業を行うための10億円すら作ることができず、市内企業に公設市場跡地を借りてもらったことで、そのお金を捻出したという経緯があります。

そんなマイナスからのスタートで、予算を圧迫する給食公社の解散、土地開発公社の解散に取り組み、また返済計画も国に掛け合い、10年を30年に延ばすことに成功できたからこそ、今があると自負しております。何もせず、手をこまねいては今の茂原はなかったと思います。そのことだけでも、市長として努力してきてよかったと思えます。

しかしながら、茂原市はいまだに、実質公債費比率、将来負担比率とも千葉県内においては、ワーストに近い状況にあり、財政健全化にはまだ道半ばであると感じています。

また、市民の生命に直結する災害対策においてもまだまだ満足できるものではありません。本市の持つこのような課題を解決していくためには、経験によって培われた判断力と、四方に張り巡らされた豊かな人脈がさらに大切になると考えます。

先日、久しぶりに公立保育所の豆まきに一日所長としてお邪魔し、子どもたちの可愛らしい笑顔から、たくさんの元気を分けてもらってきました。

この未来を担う子どもたちのためにも、より明るい茂原市の未来をつくるために、今自分ができることに邁進し、次代に引き継いでいかななくてはならないと改めて心に誓いました。

この4月21日^①には市長選挙があります。これが今期最後の「市長が行く」になりますので、私の思いを書かせていただきます。